

JR東海労なごや

2016年1月7日 No.1058
JR東海労名古屋地方本部
発行者：山田哲也
編集者：教宣部

ホーム上の安全について業務委員会を開催

名古屋地本は12月25日、駆け込み乗車などのホーム上の安全について業務委員会を開催しました。会社はこの問題を重要課題と認識しており、今後も新提言があれば申し入れをしてほしいと伝えてきました。議論に先立ち、自分はなぜ駆け込み乗車をしていないのかを双方で本音で言い合いました。「駆け込みを他の社員に見られたときに言い訳できない」「駆け込んだときに他のお客様の目で恥ずかしい」などが抑止力となっているのか、議論し認識の一致を図りました。

20年近く車内放送やポスターなどにより注意喚起をしているが一向に成果が見えてこない現実

しかし、一方では駆け込み乗車の増減のデータはない、駆け込みによる列車遅延のデータはないなど不誠実な対応もありました。現場の感覚で言えば、明らかに発車の際の車掌による非常ブレーキ使用は増加しています。当然列車遅延も増えていると思われまます。20年近く車内放送やポスターなどにより注意喚起を促していますが、一向に成果が見えてこないが故にデータを明らかにできないとだと思われまます。

マナーの向上は見られず、むしろ、発車間際に故意に黄線の中に入ってくる旅客も見られます。ケガや列車遅延は関係ない、駆け込みで乗せないJRが悪いと言わんばかりです。実際に駆け込むお客様は自分はケガなどしないと思っていますし、車掌や駅員に恥をかかされたと思っているのです。自分が発車の何分も前から並んで待っている他のお客様に列車遅延という迷惑をかけているとは考えていないのです。

悪いのは現場社員のみなのか

お客様のアクシデントにより転んだり、杖などをドアに挟んでしまったときに、車掌が気づかずに発車させたことの責任を問われ、これまで何人かの車掌が駅へ配転されました。会社は20年近く取り組んできた注意喚起が喚起になっていないことを棚に上げて、現場社員への責任追及以外のものではありません。

このような現状の中では、いくら車掌が防止に向けてがんばっても駆け込み乗車は減らないと考えまます。駆け込み乗車に対してホームドアなどの抜本的な対策を講じるとともに、マナーの悪化した旅客に対して、列車運行妨害に当たることなどを啓蒙しモラルの向上を促すことにより防止策を講じる必要があると私たちは考えまます。